



2025 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 マ ツ オ カ コ ー ポ レ ー シ ョ ン
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 執 行 役 員 松 岡 典 之
(コード番号：3611 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 取 締 役 常 務 執 行 役 員 経 営 企 画 部 長 田 村 保 治
(TEL. 084-973-5201)

新中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、2026 年度から 2028 年度を計画期間とする新中期経営計画「BEYOND2028 ～ Stitch the Future ～」を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 新中期経営計画「BEYOND2028 ～ Stitch the Future ～」の概要

当社は、2026 年度から 2028 年度を対象期間とする新中期経営計画「BEYOND2028 ～ Stitch the Future ～」を策定いたしました。

本計画は、これまで当社が培ってきた縫製技術、誠実なものづくり、納期遵守への姿勢といった「選ばれる工場」としての信頼と実績を基盤に、技術・人材・情報を有機的に結びつけ、新たな価値を創出することを目的としています。

近年、製造業を取り巻く環境は一層複雑化しており、企業にはサプライチェーン全体を俯瞰し、情報の一元管理とリスクの予見・制御を可能とする統制力が求められています。当社もこの認識のもと、全社的な連携と統制を強化し、量的な拡大にも耐えうる持続可能かつ質実な成長を実現するための 3 年間の取り組みを進めてまいります。

2. 内容

内容につきましては、添付資料をご参照ください。

なお、本中期経営計画に関する資料は、当社ホームページ(<https://www.matuoka.co.jp/>)でもご覧いただけます。

以 上

株式会社マツオカコーポレーション

新中期経営計画

BEYOND2028～Stitch the Future～

証券コード3611

2025年11月13日



INDEX

- 1 マツオカコーポレーションの概要
- 2 現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り
- 3 新中期経営計画の位置づけと基本方針
- 4 新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～
 - 事業戦略 ①生産規模を追求し、利益を最大化
 - 事業戦略 ②「選ばれる工場」に向けて提供価値を磨く
 - 財務戦略 ③資本効率を高める経営への転換
 - 人財戦略 ④人的資本への重点取り組み
- 5 サステナビリティのための取り組み



新中期経営計画の発表に当たって

BEYOND2028 ～ Stitch the Future ～



「BEYOND2028」は、これまで積み重ねてきた信頼と実績を土台に、技術・人・情報を縫い合わせ、新たな価値を創造する挑戦です。この新中期経営計画は、持続可能で統制された成長を目指し、全社が一丸となって進化する3年間の歩みです。

私たちは、縫製技術の鍛錬、誠実なものづくり、納期への真摯な対応を積み重ねながら、「選ばれる工場」として信頼構築に取り組んできました。

今、私たちを含む多くの企業には、これまで以上に全体を見渡す統制力が求められています。製造業もまた、資材調達から生産・物流に至るまでのサプライチェーン全体を見通し、透明性をもって情報を一元管理し、リスクを未然に制御する力が欠かせないと実感しております。

これから私たちは、量的な拡大にも耐えうる「質実」かつ「統制」された成長を目指します。工場と本社の連携を強化し、“スマート化”と“見える化”を進めることで、効率と対応力を高めます。

こうした取り組みの先に、私たちは社会と顧客にとって、なくてはならない存在であり続けたいと心から願っています。

INDEX

- 1 マツオカコーポレーションの概要
- 2 現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り
- 3 新中期経営計画の位置づけと基本方針
- 4 新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～
 - 事業戦略 ①生産規模を追求し、利益を最大化
 - 事業戦略 ②「選ばれる工場」に向けて提供価値を磨く
 - 財務戦略 ③資本効率を高める経営への転換
 - 人財戦略 ④人的資本への重点取り組み
- 5 サステナビリティのための取り組み



マツオカコーポレーションの概要

これまでの企業としての歩み

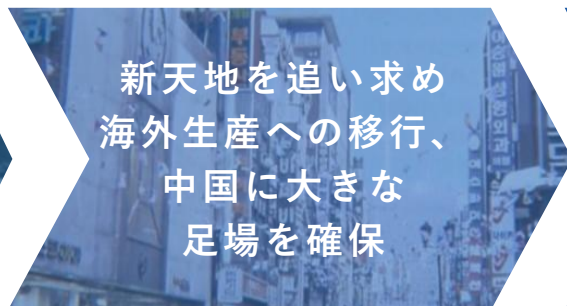
1956 ~ 創業



呉服屋として創業、
“つくり手”である
縫製業へ

- 広島県で呉服屋として創業
- 1960年代から製造の仕事を拡大
- 1980年に100名の工員を抱える工場に

1982 ~ 基盤構築期



新天地を追い求め
海外生産への移行、
中国に大きな
足場を確保

- 1982年に韓国で委託生産を開始
- 1990年に浙江省平湖市の企業に出資、合併での海外自社工場が操業開始
- 1991年に生産100万枚を達成
- 1998年に日本国内の工場を完全撤退

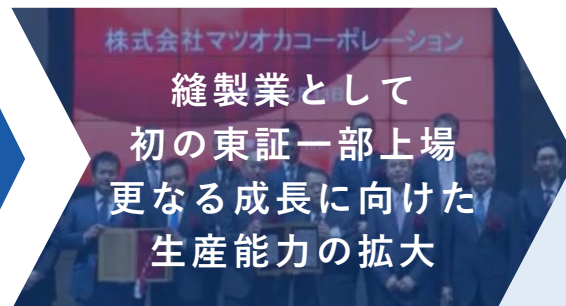
2003 ~ 開拓・拡大期



国内企業として
最先端を走り、
ASEAN諸国、
 Bangladeshに
拠点を開拓

- 2004年にミャンマーの日系工場を譲受
- 2007年に日系縫製メーカーとして初めて Bangladesh に工場を設立
- 2015年にベトナムに工場を設立

2017 ~ 更なる成長へ



縫製業として
初の東証一部上場
更なる成長に向けた
生産能力の拡大

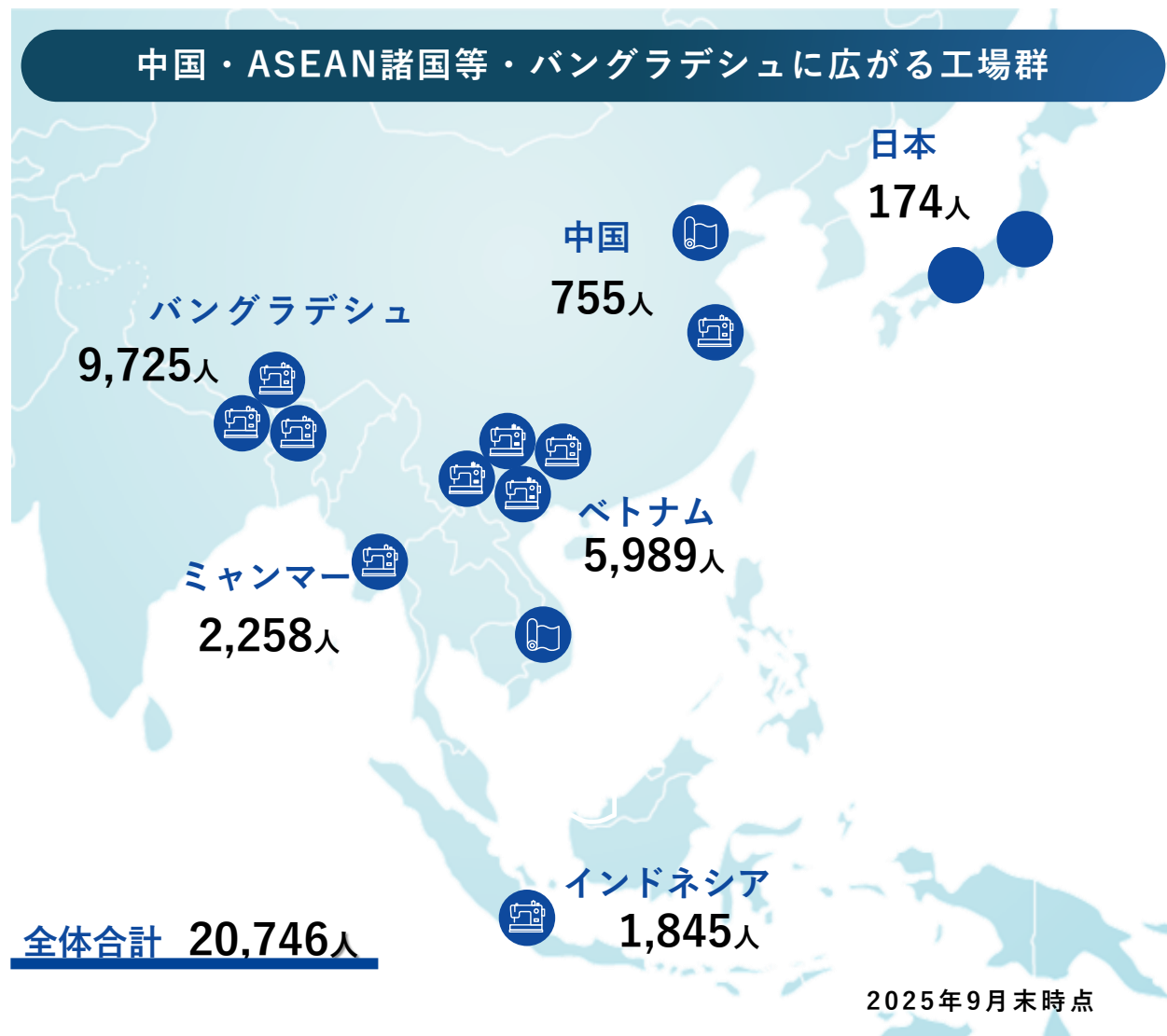
- 2017年に国内縫製メーカーとして初めて東証一部に上場
- 上場により調達した資金を、生産能力拡大と品質向上のために投資
- 2018年にインドネシアに工場を設立

705億円

25/03

マツオカコーポレーションの概要

- 他社に先駆けてASEAN諸国等・ Bangladeshに進出し生産体制を構築
- 自社工場で現場を直接マネジメントすることにより品質・信頼性を確保



縫製事業

縫製サービスの提供

海外自社工場を強みに、
高品質・低コスト・正確な納期を実現



ラミネーション フィルム事業

加工生地の販売

織布に機能性フィルムを張り合わせ
アウトドア素材等に適した生地を製造

国内外のアパレルメーカー

マツオカコーポレーションの概要 ～ アパレル業界を取り巻く環境への認識 ～

業界の構造変化



消費者

- 価値価格バランス志向
- ブランド重視
- サステナビリティ重視



サプライチェーン

- 地政学的リスクの拡大
- 新興国での人件費上昇、労働力確保の難易度上昇

「持続的に高品質×適正コストの仕組み」、「安定した供給力」
「透明性・信頼性のある製造管理」がこれまで以上に重視されている

世界市場規模

1.7兆\$

2024年

年平均成長率
3.5%

2.3兆\$

2032年

世界市場は今後も規模を拡大の見通し

出所：Fortune Business Insights（2025年10月6日発表）

構造変化に対応した提供価値を磨き続け、
世界中の顧客から「選ばれる工場」へ

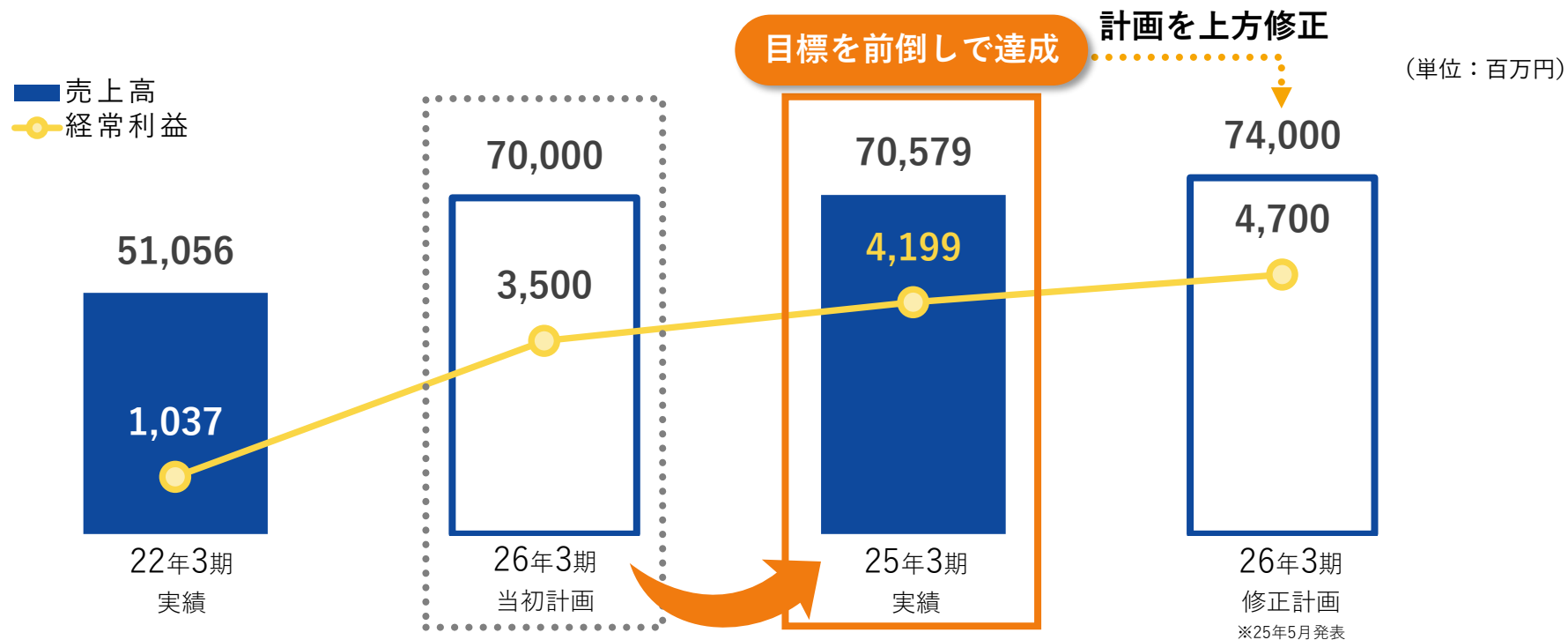
INDEX

- 1 マツオカコーポレーションの概要
- 2 現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り
- 3 新中期経営計画の位置づけと基本方針
- 4 新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～
 - 事業戦略 ①生産規模を追求し、利益を最大化
 - 事業戦略 ②「選ばれる工場」に向けて提供価値を磨く
 - 財務戦略 ③資本効率を高める経営への転換
 - 人財戦略 ④人的資本への重点取り組み
- 5 サステナビリティのための取り組み



現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り

「ビジョン2025」の業績目標については、一年前倒しでの目標達成に成功



前倒し達成の要因

- 計画期間の前半で予定通りに工場投資を実施
- 工場を稼働させるための従業員確保と営業受注が計画を超えるペースで進捗

「欲しいときに欲しいものを欲しい量」届けるサプライチェーンを整備
「良質なものづくり」は、顧客より一定の評価を受けている

現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り

「ビジョン2025」の成果と課題

工場新設・ASEAN諸国等への拡大成果が大きい一方、データ経営・組織体制強化などは整備途上も課題は残る

成果

生産地拡大

- 新工場(ベトナム2工場、バングラデシュ1工場)への投資を予定通り計画期間前半に推進
- ASEAN諸国等への拡大、バングラデシュへの技術移管も推進

営業力強化

- 自社工場の強みを訴求しながら受注を拡大、当初計画を前倒しで達成

人財・組織

- 新人事制度の導入・実施
- グローバル人事データベースの管理（四半期データ）

課題

営業力強化

- グローバルでの新規顧客開拓は途上で、中長期的な取り組みが必要

人財・組織

- 自社工場の拡大も続く中で、グローバル・ガバナンスの高度化、体制強化の必要性を認識
- 各所で専門性の高い人財の採用拡大が必要

ICT

- MES・ERP等※システムは、現行計画期間中の導入完了と効果発現には至らず、27/3期以降に効果検証と導入拡大を継続する予定

グローバルな事業展開を前提に、持続性のある成長を目指すべきステージを迎えている

※MES=Manufacturing Execution System（製造実行システム） ※ERP=Enterprise Resource Planning（総合基幹業務システム）

INDEX

- 1 マツオカコーポレーションの概要
- 2 現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り
- 3 新中期経営計画の位置づけと基本方針**
- 4 新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～
 - 事業戦略 ①生産規模を追求し、利益を最大化
 - 事業戦略 ②「選ばれる工場」に向けて提供価値を磨く
 - 財務戦略 ③資本効率を高める経営への転換
 - 人財戦略 ④人的資本への重点取り組み
- 5 サステナビリティのための取り組み



新中期経営計画の位置づけと基本方針

【位置づけ】

経営理念

- VISION : あらゆる服づくりの舞台裏に私たちがいる
- MISSION : 新たな道を切り拓き、未来を紡ぐ
- VALUES : お客様の全てのニーズに応える

事業の目指す姿

- 「**選ばれる工場**」になる
 - 変化する顧客の要望に常に応え、服づくりの未来を支え続ける
 - 工場・製造を可視化することで、責任ある服づくりを貫く

組織の目指す姿

社員一人ひとりが責任をもって行動し、組織全体でAccountability（説明責任）を果たす文化を育てる

新中期経営計画 の取り組み

目指す姿の実現に向け、持続的成長が可能な事業基盤を確立する3年とする

拡大した生産能力を
最大限に活用する

稼働最大化

経営管理

経営インフラへの
積極的・徹底的な投資を進める

工場の進化

組織・人財

新中期経営計画の位置づけと基本方針

【基本方針】

売上高 : 740億円
経常利益 : 47億円
R O E : 7.3%

現中期経営計画
2025年

売上高 : 900億円
経常利益 : 60億円
R O E : 9.0%

新中期経営計画
2028年

「選ばれる工場」への進化
ROE 10%を目指す

新中期経営計画 BEYOND2028～Stitch the Future～ 基本方針

工場稼働の最大化・生産の拡大（拡大した生産能力を最大限に活用）

拡大を支える基盤への重点投資（システム投資×製造管理×顧客対応力）

「資本コストや株価を意識した経営」への転換

グローバル・ガバナンス強化（組織・人財への投資）

新中期経営計画の位置づけと基本方針 ～ 経営目標（財務・非財務）～

- 2029年3月期で、売上900億円（対26/3期比 21.6%増）、経常利益60億円（対26/3期比 27.7%増）達成を目指す
- 財務目標として「ROE、純利益と自己資本比率」を加え、非財務目標も新たに設定

(単位：百万円)

		指標	26/3期（見込み）	29/3期
財務目標	成長性	売上高	74,000	90,000
	収益性	経常利益	4,700	6,000
		純利益	3,000	4,000
		ROE	—	9.0%以上
	財務健全性	自己資本比率	—	45～55%を維持
非財務目標	雇用創出	連結従業員数	20,746人	24,000人
	生産量	縫製事業（衣類）	64百万枚	78百万枚
		ラミネーションフィルム事業	15百万ヤード	15百万ヤード

※26/3期および29/3期は、予想為替レート(USD/JPY=148.0円)を使用しております

INDEX

- 1 マツオカコーポレーションの概要
- 2 現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り
- 3 新中期経営計画の位置づけと基本方針
- 4 **新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～**
 - 事業戦略 ①生産規模を追求し、利益を最大化
 - 事業戦略 ②「選ばれる工場」に向けて提供価値を磨く
 - 財務戦略 ③資本効率を高める経営への転換
 - 人財戦略 ④人的資本への重点取り組み
- 5 サステナビリティのための取り組み



新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～

基本戦略と重点政策の概要

以下の4本柱を基本戦略に据え、重点施策の実行を通じて持続的な企業価値の向上を目指す

基本戦略

事業戦略

① 生産規模を追求し、利益を最大化

生産キャパシティを最大限に活用し、アイテムや拠点の最適配置を進めることで、稼働率と利益性の両立を図る

② 「選ばれる工場」に向けて提供価値を磨く

競争力の根幹である「品質・コスト・納期」高度化への継続的な取り組みに加え、新たなニーズにも先手で取り組んでいく

財務戦略

③ 資本効率を高める経営への転換

経営資源を活かし、利益と効率を両立する
経営スタイルへ進化する

人財戦略

④ 人的資本への重点取り組み

競争力の源泉である“人と組織”に継続的に向き合い、
Accountability(説明責任)を果たし、グローバルで挑戦し続ける組織に進化

重点施策（概要）

- 生産地拡大による、サプライチェーンの強化・拡充
- ラミネーションフィルム事業の“稼働最適化”と“開発力強化”

- 工場毎の技術・品質の成長とアイテム対応力の強化
- スマートファクトリー化による製造管理の高度化

- 資本政策・キャッシュマネジメントの高度化
- キャッシュ創出力強化による成長投資と株主還元の両立

- ASEAN諸国等での事業拡大に対応したグループ人財戦略
- 現場力・技術レベル向上を目指す「横断的活動」の制度設計

INDEX

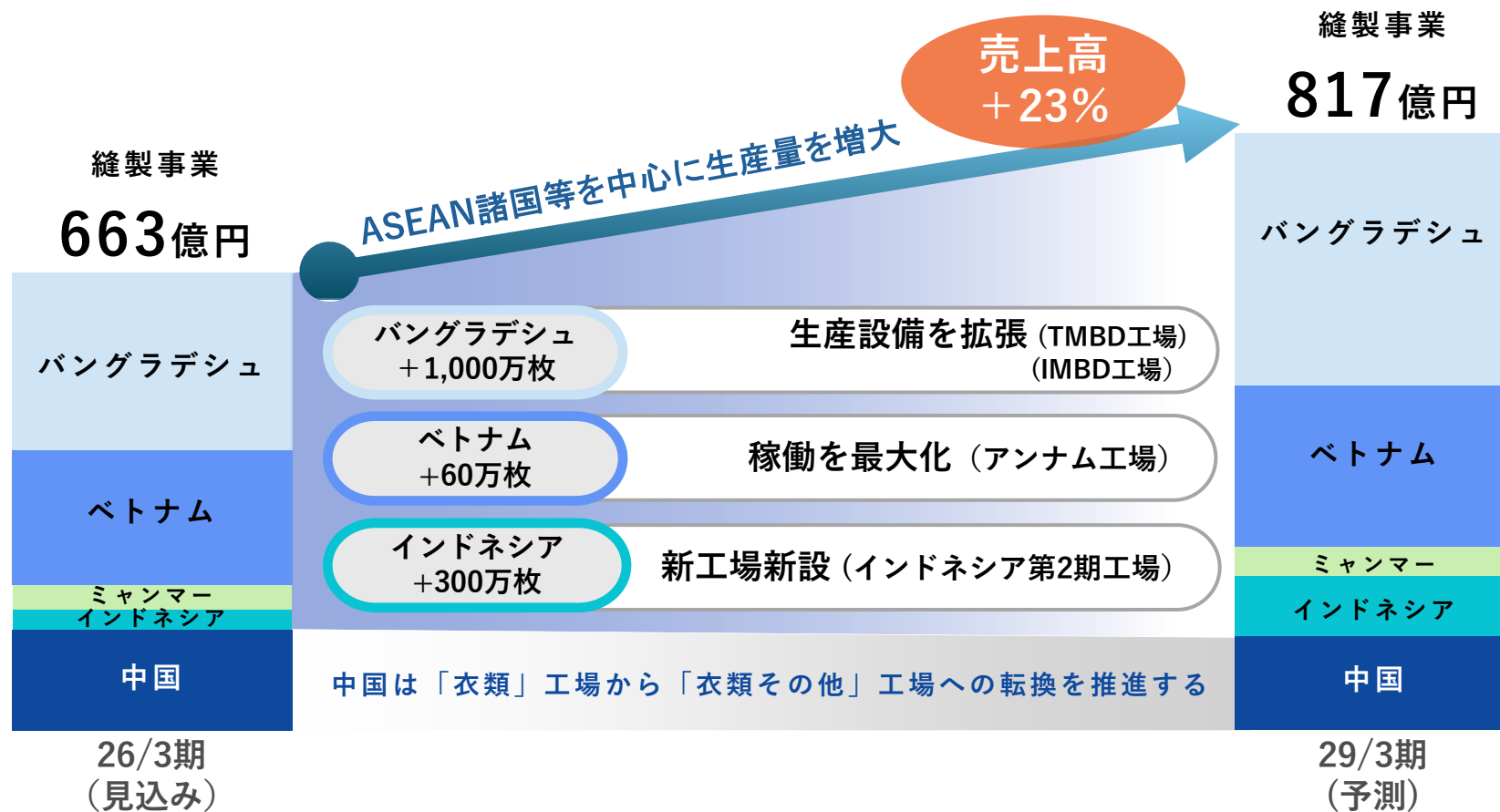
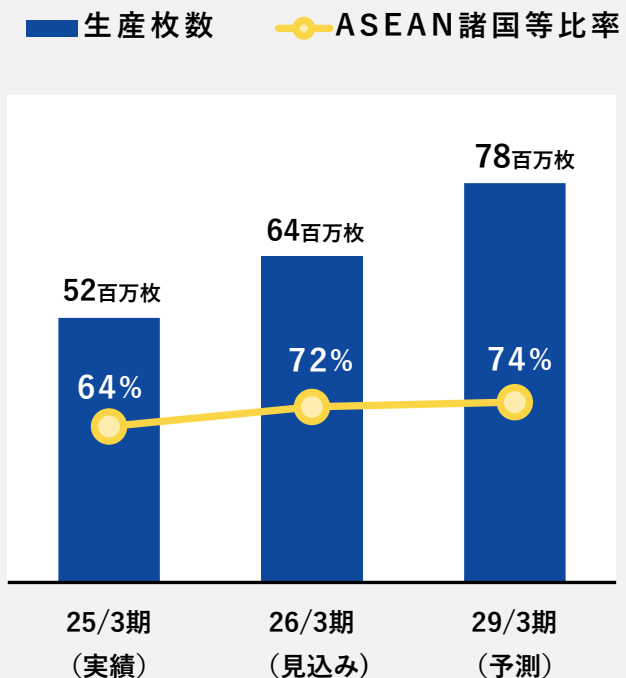
- 1 マツオカコーポレーションの概要
- 2 現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り
- 3 新中期経営計画の位置づけと基本方針
- 4 **新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～**
 - 事業戦略 ①生産規模を追求し、利益を最大化
 - 事業戦略 ②「選ばれる工場」に向けて提供価値を磨く
 - 財務戦略 ③資本効率を高める経営への転換
 - 人財戦略 ④人的資本への重点取り組み
- 5 サステナビリティのための取り組み



事業戦略① 重点施策：生産地拡大による、サプライチェーンの強化・拡充

ASEAN諸国等への生産拡大により、
生産地比率は目標水準に到達し、今後は規模の拡大が中心となる

衣類生産枚数・ASEAN諸国等比率の推移

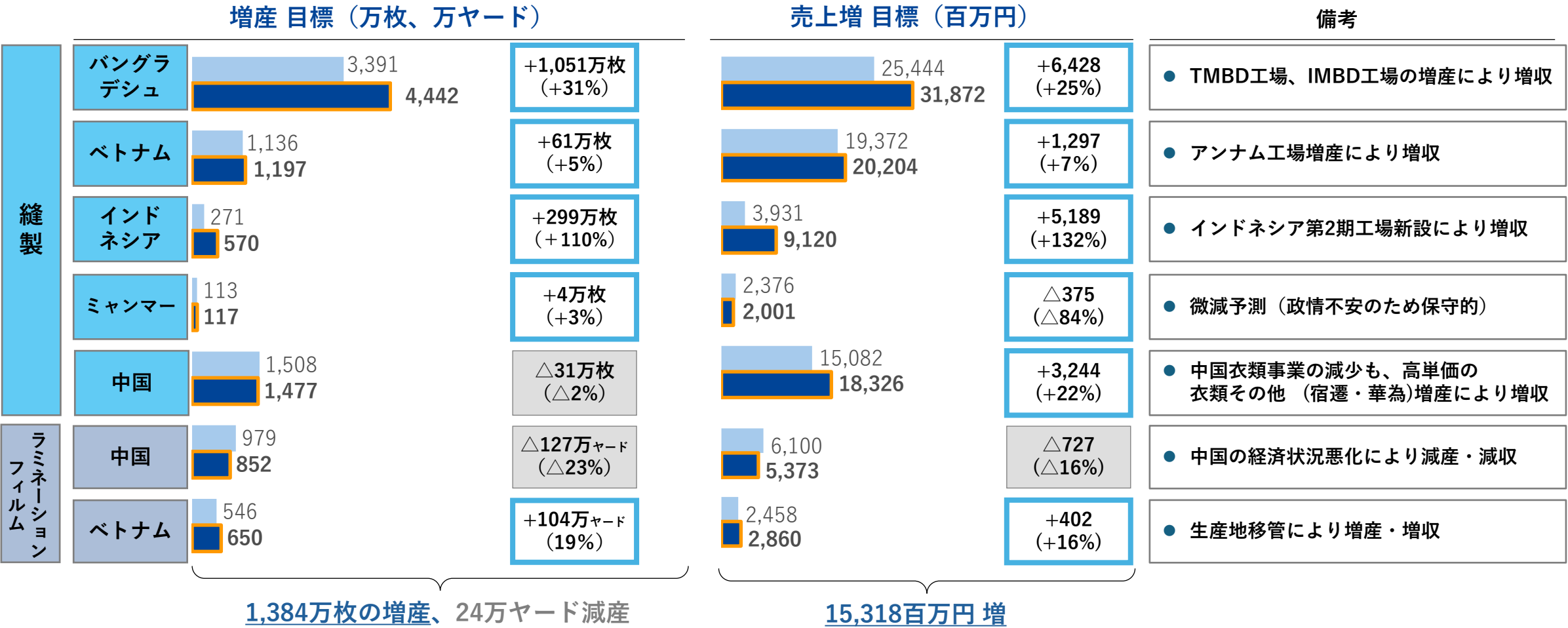


ASEAN諸国等を中心に生産枚数を増やし、過去最大の売上規模を目指す

事業戦略① 重点施策：生産地拡大による、サプライチェーンの強化・拡充

29/3期の目標について（対26/3期での比較）

26/3期（見込） 29/3期（目標）



29年目標：26年比 1,384万枚（+22％）の増産、153億円（+23％）売上増を目標とする

事業戦略① 重点施策：ラミネーションフィルム事業の“稼働最適化”と“開発力強化”

外部環境の変化

米国 対中関税

- 中国からの調達回避が進行

中国 機能性生地需要増

- アウトドアアパレル用途の需要増加

欧州 環境素材の規制

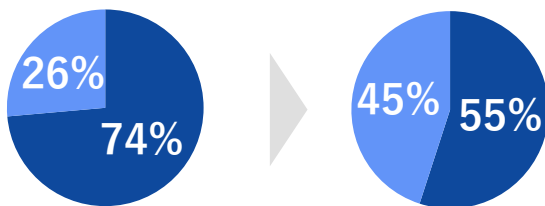
- フッ素樹脂使用に対する環境規制が強化

重点施策

2拠点両立の“稼働最適化”

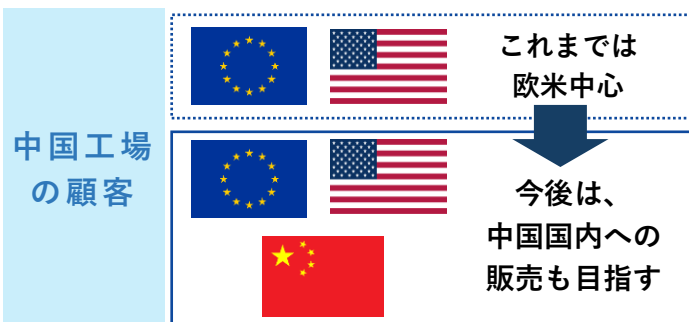
生産・技術のベトナム移管

■ 中国 ■ ベトナム



米国向け顧客中心にベトナムへ生産を移管

中国国内顧客の開拓



中国国内顧客開拓で空いた稼働を埋めていく

機会に備える“開発力強化”

環境対応の素材・加工技術開発

人財投資

設備投資

開発力強化

環境対応と機能性を兼ね備えた次なる
ヒット製品を生み出すフィルム開発に専念

- 地政学的リスクや消費者トレンドなど、急な事業環境変化への対処と同時に、より強固な生産・顧客基盤へと進化させる
- 機械設備・人財への投資を軸とした、新たな素材・加工技術の開発強化により、核となる提案力を磨く

INDEX

- 1 マツオカコーポレーションの概要
- 2 現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り
- 3 新中期経営計画の位置づけと基本方針
- 4 **新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～**
 - 事業戦略 ①生産規模を追求し、利益を最大化
 - 事業戦略 ②「**選ばれる工場**」に向けて提供価値を磨く
 - 財務戦略 ③資本効率を高める経営への転換
 - 人財戦略 ④人的資本への重点取り組み
- 5 サステナビリティのための取り組み



事業戦略②

競争力の根幹として強化すべき2つの柱とシステム効果の考え方

柱1：根幹であるQCD※1を磨き続ける

計画生産の徹底

同一アイテムのオーダーを固め、習熟度と品質を同時に向上させるための計画精度追求

技術の承継と最適化

技術者派遣を通じた集中的な指導

柱2：環境変化による新たなニーズに対応する

サプライチェーンの統制性

納期、品質リスクに対し、データに基づいて柔軟に制御・統制できる仕組みを検討

透明性の確保

トレーサビリティ基盤の整備を検討し、信頼性を向上させる対応策を実施（ESPR DPP等※2）

MESの導入により「実態の可視化」が進む

現場の解決力強化（Q・Dの安定化）



現場の行動をデータで最適化し、
人の解決力を最大化

経営の対応力強化



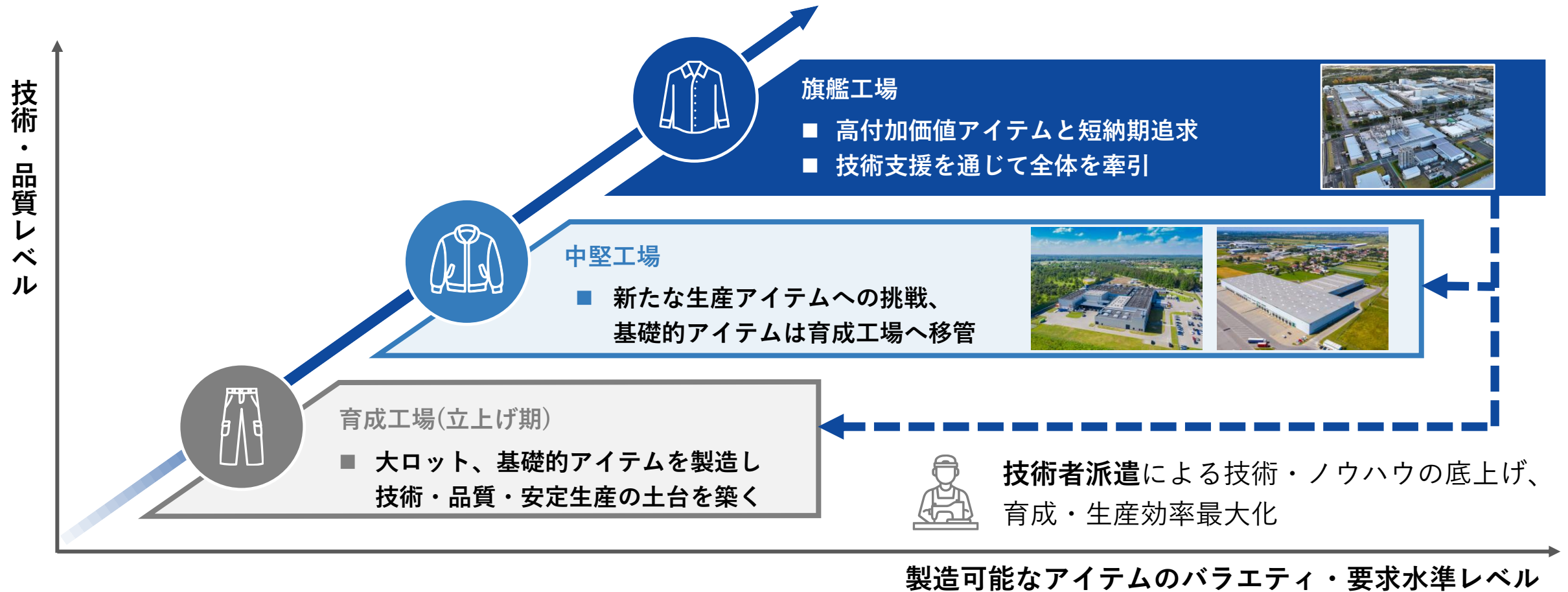
経営の判断・統制の高度化
変化への対応力を確立（長期的視点）

※1 品質（Q）、コスト（C）、納期（D）

※2 Ecodesign for Sustainable Products Regulation（製品の設計段階から環境負荷を低減するためのEU規則）、DPP（デジタル製品パスポート）

事業戦略② 重点施策：工場毎の技術・品質の成長とアイテム対応力の強化

同一アイテムのオーダーを固め、習熟度と品質を同時に向上させるための計画精度を追求



成長段階に応じてオーダー量と生産アイテムを最適に配置

事業戦略② 重点施策：スマートファクトリー化による製造管理の高度化

生産・在庫・収益を見える化し、納期短縮・安定供給・コスト削減・品質強化を同時に実現

MES・ERPの導入

見える化・分析の即時化

製造管理

- 現場での課題特定
- 改善の早期化



収益管理

- 収益状況の即時可視化
- 正確性向上

資産管理

- 仕掛品や在庫の自動計上
- リアルタイム集計

現場の「判断」と「行動」を支えて、顧客対応力につなげる

納期の短縮

安定供給力の向上

コストの削減

品質の強化

※MES=Manufacturing Execution System（製造実行システム）

※ERP=Enterprise Resource Planning（総合基幹業務システム）

事業戦略② 重点施策：スマートファクトリー化による製造管理の高度化

下記パイロット工場で確認・修正を繰り返し、システム実用性、現場適応性を検証

【育成工場】



バングラデシュ

ISHWARDI
MATSUOKA
BANGLADESH.LTD.
(IMBD工場)

従業員：3,264名

月産能力：24.2万枚

【中堅工場】



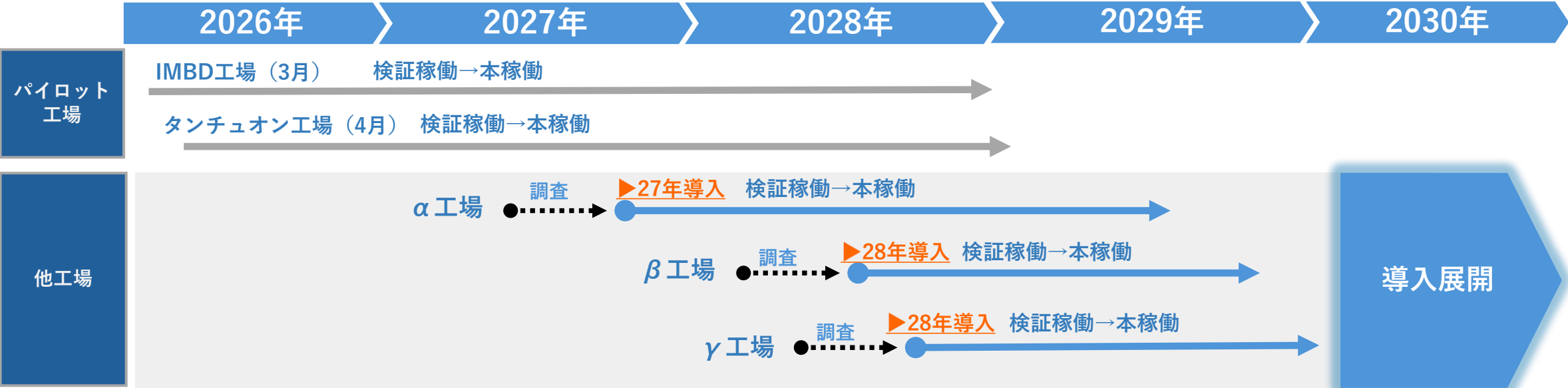
ベトナム

THANH CHUONG
MATSUOKA GARMENT
CO.,LTD
(タンチュオン工場)

従業員：768名

月産能力：6.7万枚

※2025年9月末時点



INDEX

- 1 マツオカコーポレーションの概要
- 2 現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り
- 3 新中期経営計画の位置づけと基本方針
- 4 **新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～**
 - 事業戦略 ①生産規模を追求し、利益を最大化
 - 事業戦略 ②「選ばれる工場」に向けて提供価値を磨く
 - **財務戦略 ③資本効率を高める経営への転換**
 - 人財戦略 ④人的資本への重点取り組み
- 5 サステナビリティのための取り組み



PBR1倍以上を目指すための資本効率と企業価値を高める経営への転換

中期的方針

資本コスト超過を出発点とし、持続的に株主期待を上回る成長と価値創造を目指す

重点施策

ROE10%以上を長期目標に資本効率の向上

1 事業運営の効率化

- キャッシュマネジメント高度化
- 資産の投資対効果管理の強化

2 資本政策の高度化

- 投資評価制度の運用高度化
- 資本コストを意識した資本配分方針明示

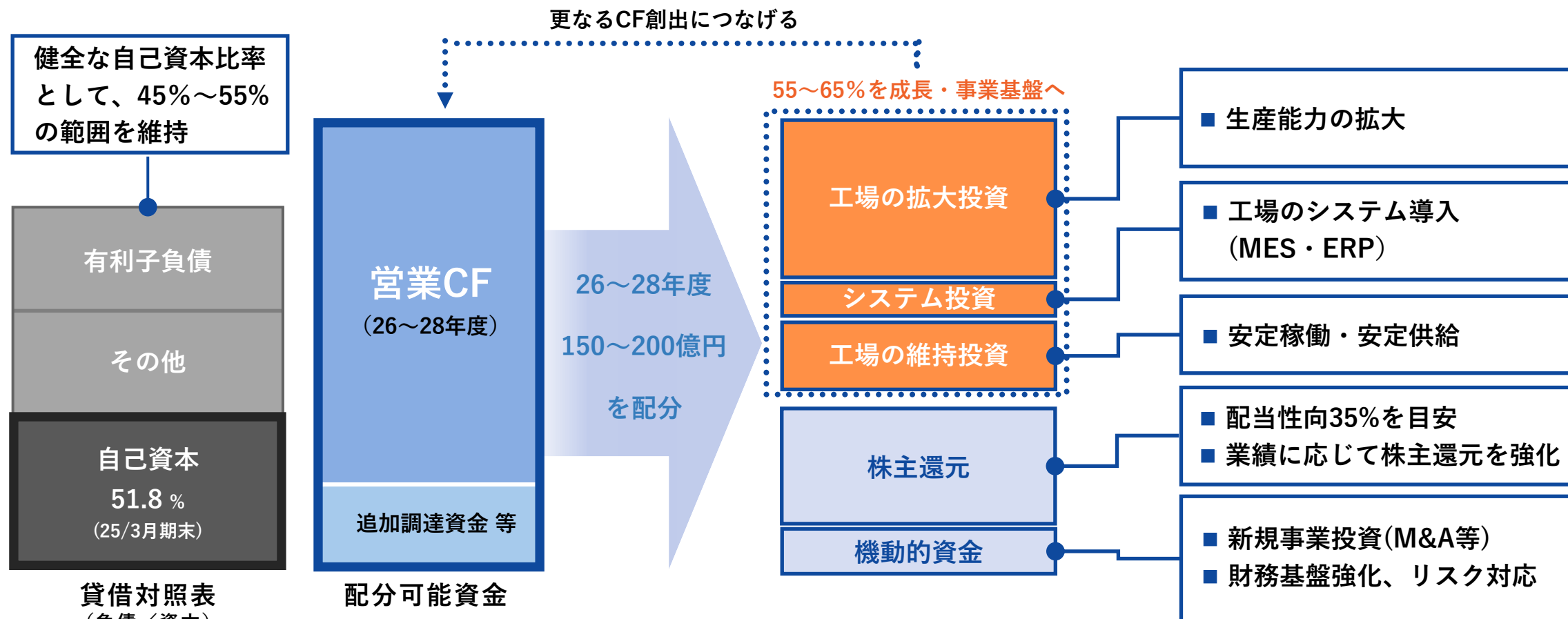
株主との対話強化

3 IRを中心とした発信の強化

- 成長戦略推進による、成長期待感の醸成
- 資本効率指標のモニタリング

財務戦略③ 重点施策：キャッシュ創出力強化による成長投資と株主還元の両立

キャピタルアロケーションの方針（27/3期～29/3期累計）



資本構成を健全に維持しつつ、企業価値の最大化に向けて、成長投資と株主還元の両方を強化

設備投資の概算（27/3期～29/3期）

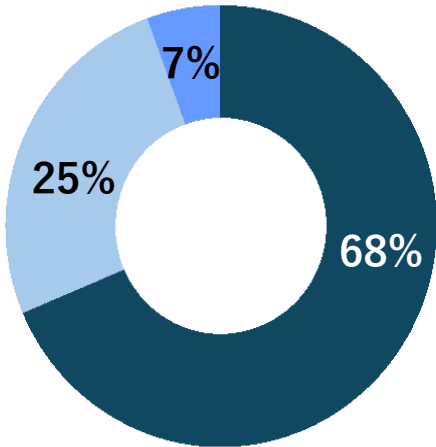
3ヵ年投資額の概算（予測）

（単位：百万円）

投資分類		3ヵ年 投資額予測	投資内容	目的・効果
成長投資	システム投資	680	工場へのシステム導入 (MES・ERP)	現場の可視化と効率化
	工場の拡大投資	7,150	新設・生産設備の拡張	生産能力の拡大
維持投資	工場の維持投資	2,670	工場設備維持にかかる投資	安定稼働・安定供給

投資分類の構成比（％）

- 工場拡大投資
- 工場維持投資
- システム投資

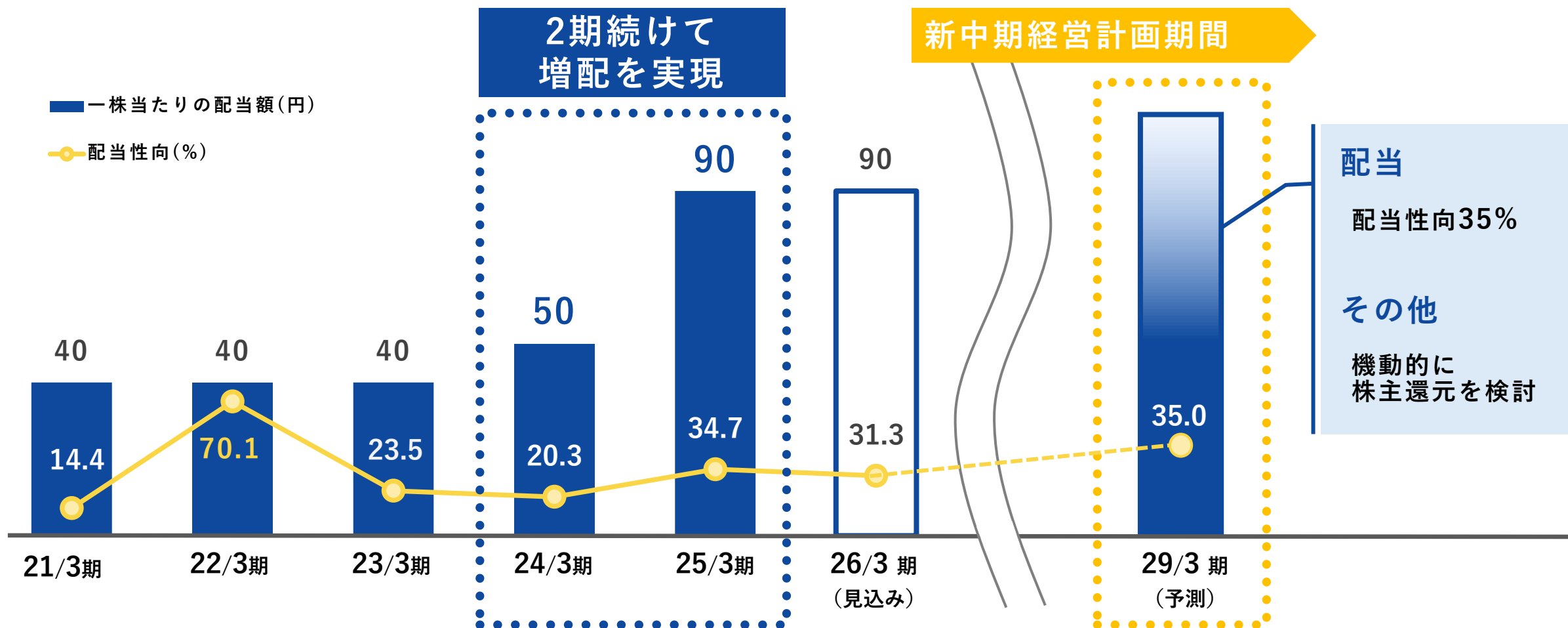


生産キャパシティ拡大に向けた投資は継続的に実施

成長投資比率 ▶ 75%

株主還元方針

- 29期連続配当実施中
- 配当性向 35%を目安に株主還元を実施
- 剰余金配当に加えて、財政状態や株価の状況に合わせて、機動的に還元強化を検討



INDEX

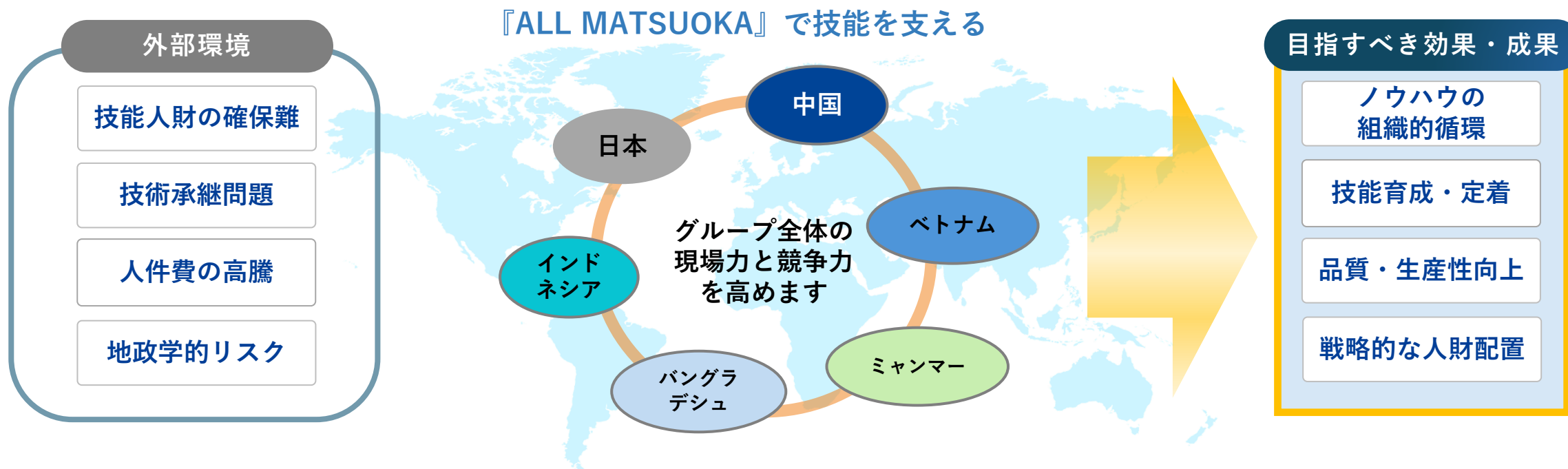
- 1 マツオカコーポレーションの概要
- 2 現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り
- 3 新中期経営計画の位置づけと基本方針
- 4 **新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～**
 - 事業戦略 ①生産規模を追求し、利益を最大化
 - 事業戦略 ②「選ばれる工場」に向けて提供価値を磨く
 - 財務戦略 ③資本効率を高める経営への転換
 - 人財戦略 ④**人的資本への重点取り組み**
- 5 サステナビリティのための取り組み



人財戦略④ 重点施策：ASEAN諸国等での事業拡大に対応したグループ人財戦略

各国技能人財が国境や工場の垣根を越えて現場指導・改善活動が行える『横断型』スキームの構築を目指す

グローバル成長を支える組織基盤の強化



技能人財の横断的活動を実現する仕組みの構築
マテリアリティ：『全てのグループ人財がいきいき働く』

『ALL MATSUOKA』で取り組む施策と期待される効果について



I. 縫製技術・ノウハウの組織的循環

「ALL MATSUOKA」体制で技術ノウハウの横断的・機動的な展開を確立し、全拠点の生産性向上を支援する。



II. グローバル貢献を促す制度設計

横断的な活躍を正に評価し、専門性の高い人財の定着と意欲向上に資する新たな制度体系を構築する。



III. データに基づく戦略的な人財配置

グローバル人事データベースの活用を深化させ、適時・適切な人財配置を実現する基盤を整備する。

効果の視点

技能の標準化と底上げ

安定稼働・品質向上

現場マネジメント力の向上

エンゲージメントの向上

グローバル評価・報酬体系の再設定

適正人財の安定的な確保

適時適正な意思決定

人財教育システムの構築

機動的な人財配置の実現

INDEX

- 1 マツオカコーポレーションの概要
- 2 現中期経営計画「ビジョン2025」の振り返り
- 3 新中期経営計画の位置づけと基本方針
- 4 新中期経営計画 BEYOND2028 ～Stitch the Future～
 - 事業戦略 ①生産規模を追求し、利益を最大化
 - 事業戦略 ②「選ばれる工場」に向けて提供価値を磨く
 - 財務戦略 ③資本効率を高める経営への転換
 - 人財戦略 ④人的資本への重点取り組み
- 5 サステナビリティのための取り組み



サステナビリティのための取り組み

私たちのサステナビリティは、SDGs以前から創業の精神そのものです

途上国地域で「ものづくり」を続ける私たちの事業は、創業以来 全従業員 2 万人の生活基盤を支えてきました。工場の安定稼働と収益確保は人の尊厳を守るための不可欠な土台であり、私たちにとって重要なサステナビリティです。

服を着る人も作る人も幸せになる社会をつくる

Achieving Sustainability

I. サステナビリティの根幹



II. 事業継続のための「土台」

人の尊厳を守る

工場の安定稼働

収益の確保

III. 競争優位性の源泉(第三者認証)

国際基準を上回る信頼性の証明

お客様の要望に応じ、Better Work、SMETA、SEDEXなどの国際監査を継続的に受けています。これは、「国際基準に耐えうる強い工場」である私たちの品質・倫理観の揺るぎない土台です。

サステナビリティのための取り組み

これまでの取り組み ('22~'25)

職場環境の整備

- ・ 置換換気空調の完備
- ・ 送迎バスの設置
- ・ 託児所/医務室/食堂等の福利厚生

再生エネルギーの活用

ベトナム 2 拠点での太陽光パネル設置



透明性による未来への公約

私たちのサステナビリティへの取り組みは、お客様と地域からの「信用」という最大の競争優位性です。この透明性を武器にグローバルサプライチェーンにおける最も信頼されるパートナーを目指します。

BEYOND2028 ~ Stitch the Future ~

誰もが活躍できる職場づくりと仕組み化

- ・ 女性雇用の継続拡大と女性管理職者の積極的登用
- ・ 業務の見える化と標準化を実施しマニュアル化を促進



製造責任のグリーン目標

- ・ CO2排出量削減の活動展開とモニタリング強化
ベトナム 2 拠点を起点とし、グループ全体に取り組みを広げる
CO2排出量の測定や取引先への報告を通じモニタリング体制の強化を図る



永続的な信用と透明性

- ・ デジタル トレーサビリティの実現
システム導入を通じて製造責任を高度化し、製品の信頼性向上を実現する
「誰が どこで どのように いかにグリーンに」製造したかを即時に開示できる体制へ



本資料の取り扱いについて

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から経営者の判断に基づいて作成されており、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え下さいますようお願い致します。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

本資料に関するお問合せ先

株式会社マツオカコーポレーション
経営企画部 広報IR課

☎ 084-973-5201 🌐 <https://www.matuoka.co.jp/>





MATSUOKA

できる、を創る。